

田中良三名誉教授記念号の発刊に寄せて

学長 秋 山 義 昭

この度、商学討究第54巻2・3合併号を発刊するにあたり、長年本学の発展に尽くされた小樽商科大学名誉教授田中良三先生のご功績を讃え、本号を「田中良三名誉教授記念号」とすることにいたしました。

田中良三先生は、1967年に小樽商科大学を卒業後、一橋大学商学研究科修士課程に進まれました。同課程を修了後、1972年8月に当時の短期大学部講師として本学に着任され、1974年10月助教授に、1983年10月教授に昇任されております。短期大学部の廃止に伴い、1990年10月には小樽商科大学教授とられました。着任以来31年の長きにわたり本学教官としてご勤務いただきましたが、2003年3月末日をもって定年退官されました。

先生は、本学に着任されてから、研究・教育に情熱を注がれたことは勿論のこと、学内運営の面でも多くのご尽力をいただきました。中でも、平成10年から2年間は、近年大学改革の一環として重要性を一段と増し、多大な時間と労力を要する自己評価委員会の委員をお引き受けになり、またその委員長として立派に職責を果たされました。

先生のご専門は会計学ですが、大学では、簿記論、財務会計論、原価計算論、管理会計論、監査論といった会計関係の主要科目を広く担当してきました。したがって、研究分野も実に広範囲にわたっておりますが、とりわけ、セグメント別財務報告書、支払能力分析、継続性の変更と粉飾決算、コーポレート・ガ

パナンスといった問題に関心をお持ちでした。この点は、本学での恩師故石河英夫名誉教授（1974年退官）の影響も強かったように思われます。常に、わが国における実態調査に基礎を置き、現実には起こっている問題をいかに解決するか、といった観点が研究の出発点になっております。

教育熱心でもあられ、勉強不足の学生にとっては厳しい指導をされた反面、税理士や公認会計士等の資格取得を目指す学生には、いろいろな形でサポートをしていただいていたいました。

先生の以上のようなご活躍に対し、本学教授会は、教育上、学術上特に功績が顕著であって、本学の発展のために大きなご貢献をいただいたものと認め、小樽商科大学名誉教授の称号を授与することに決定いたしました。

先生は、本学を退官後も引き続き道都大学において教育・研究にあたっております。今後は、趣味の園芸や温泉めぐりにも時間を割いていただきながら、ますますご壮健でありますようご祈念申し上げ、記念号発刊のご挨拶といたします。